

iNSTITUTE FOR GLOBAL HEALTH POLICY RESEARCH

「健康先進国」の 知見と実績を世界へ。

About iGHP

iGHPとは

世界中で起こる政治的混乱、紛争や災害に関わる人道的危機を抱える昨今において、自国だけでなく世界規模で問題に向き合い解決していく姿勢は安全保障やマクロ経済戦略で最も重要な課題の一つです。

そのなかにあって、国際社会全体で人々の健康問題に焦点をあてソリューションの構築や実施に取り組む「グローバルヘルス」は、持続可能な世界平和や進展に必要不可欠といっても過言ではありません。

2016年5月に開催された「G7伊勢志摩サミット」でも、グローバルヘルスの発展に具体的な尽力を重ねていくことで参加各国にて合意形成がなされました。こうした世界的な潮流のなかでも、議長国である日本が特に注力したのが、保健・医療システムの改革です。

「健康先進国」としての知見や実績を世界へ発信することを目的に、国内におけるグローバルヘルス政策の重要機関として2016年10月に「グローバルヘルス政策研究センター（以下、iGHP）」は設立されました。

iGHPの主要な連携パートナーである「国立国際医療研究センター（NCGM）国際医療協力局」は1986年の創立以来、保健医療分野における日本を代表する国際協力機関として、厚生労働省や外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、世界保健機関（WHO）などと連携しながら、開発途上国での技術協力プロジェクトへの専門家派遣、国内外の保健医療人材の育成、国際保健医療の研究を通じて国際協力を行ってきました。

「NCGM」の歴史を牽引しつつ、よりグローバルな視点で革新的な医療政策を日本から発信することをミッションにiGHPは保健医療分野の世界的リーダーを目指し活動しています。

Message from the Director

センター長挨拶



「グローバルヘルスは保健医療の未来」

政治的混乱、世界規模の人口移動、人道的危機、気候変動、および絶え間なく拡大し続ける経済統合の真ただちにある今日、グローバルヘルスはまさに人間の安全保障に関わる最も重要な課題の一つであります。グローバルヘルス政策を語らずして、将来の平和で持続可能な世界の発展・展望は望めないとはいっても過言ではありません。

将来のグローバルヘルスにとって極めて重要な岐路にあつて、わが国の政府がグローバルヘルス政策研究に資するシンクタンクであるiGHPを創設したことは単なる偶然ではありません。

グローバルヘルスとは先進国から開発途上国への技術や資源の移転でもなく、援助国からの基本的なサービス提供でもありません。それは常に保健医療問題に対する包括的なアプローチを必要とし、また学際的な交流を通しての相互的学びや、革新的な研究活動を促進するものです。

一方、日本における保健医療も大きく変容しつつあります。私が座長を務めた20年後の保健医療のビジョンを検討する「保健医療2035」策定懇談会がその一例です。そこではシステム・アプローチを重要視し、「価値のある保健医療サービス」、「社会的健康の決定要因を含むライフ・デザイン」、そして「グローバルヘルスにおけるリーダーシップ」という3つの新たなビジョンを打ち出しました。

日本はこれまでも、そして、これからもグローバルヘルス政策提言において主導的役割を担って参ります。しかしながら、わが国の取り組みを持続していくためには、官民共働でグローバルヘルス分野での研究能力の大幅な拡大をしていくことが不可欠です。

国立国際医療研究センター（NCGM）は臨床医学にとどまらず、基礎・最先端医療研究機関としての役割も果たしております。しかし、NCGMがわが国を代表するグローバルヘルス分野の中心に立つためには、グローバルヘルス政策においても先導的な役割を担わなければなりません。グローバルヘルスの実践に関して日本人が学んだ教訓や、専門知識の効率的な伝承を妨げているのは、確固とした国内外を含めたグローバルな科学的評価の不充足さに起因しております。

iGHPのミッションは、この状況を改善し、主としてグローバルヘルス政策に資する日本の代表的なシンクタンクとして活動していくことです。私たちは国内外を問わず、官民学のあらゆる部門が世界中の研究機関と連携してグローバルヘルスの発展のために貢献して参ります。

関係者が力を合わせ共に成果を挙げていくことによって、この不透明な時代の真ただちにあるグローバルヘルス政策に大きな変革をもたらすことが出来ると確信しております。

グローバルヘルス政策研究センター長
渋谷 健司



Mission

iGHPのミッション

i 国際保健医療協力に関する研究

iGHPの重要なミッションの一つは国際保健医療協力に関する研究です。私たちは様々な地域における支援プロジェクトと密接に連携・協力し、これらのプロジェクトの効果と効率を高めることを目標にしています。また、支援プロジェクトから集積される知見の質と量を向上させ、当該国の保健システムの改善や、それに伴う国際保健活動の改善を実施していきます。

ii ヘルスシステムおよび保健医療分野の研究

iGHPでは、国際保健医療協力領域で以下の研究に従事しています。「WHO協力センターとしてヘルスシステムに関する研究」、「海外拠点を活用した保健医療分野の研究」、「人材育成」など。システムイノベーションや外交の経験・技術を駆使し、国際保健活動の現場における効率的かつ、正確な情報収集と集積の手段を構築。また、集積した情報や研究結果を活用した研究のコンサルテーションも提供しています。

iii 次世代グローバルヘルスリーダーを育成

私たちはさまざまな国際保健医療協力活動に、革新的な研究アプローチで取り組みます。そして、獲得した知見を集積し、人材育成という視点でも積極的に活用。日本の次世代グローバルヘルスリーダー・国際的政策研究人材育成に寄与します。

iv 日本へ、そして世界へ向けた政策提言

国や自治体への医療・保健政策提言もiGHPの重要なミッションの一つです。国際保健プロジェクトにおける体系的なデータ収集と評価を支えるICTプラットフォームを構築・運用し、情報収集と施策評価のシステムづくりをすることで、諸外国または地方自治体の効率の良い政策立案を支援します。そのほか、ICTプラットフォームや世界に広がる国際ネットワークを活用することで、より実効性のある国際医療協力活動の支援を推進して、iGHPのエビデンスに基づく政策提言機能の向上にも資することが可能になります。

Monthly Seminars

セミナー開催報告

第1回グローバルヘルス政策研究センターセミナー January 24, 2017

2017年1月24日、iGHPと国際医療協力局の共同で「第1回グローバルヘルス政策研究センターセミナー」が開催されました。

渋谷健司 iGHPセンター長による、iGHPを取り巻く現代社会の状況とその活動方針に関する講演を実施。私たちが生きるこの時代、保健医療は単一化された”制度”から多くの物事や秩序を立てた”社会システム”へと移行しつつあります。渋谷センター長には、2035年までに「健康先進国」を目指すわが国にとっても、グローバルヘルスは持続可能な世界平和の進展に必要な不可欠な分野であり、社会全体でとらえていくべき重大なファクターと発表いただきました。グローバルヘルスが日本のみならず世界を救う理由として4つの理由が挙げられるという渋谷センター長からは、1:国益(開発のみならず外交安全保障・マクロ経済戦略の基盤)、2:多くの人々が社会開発・経済成長の恩恵を受けることができるUHCの発展の実現、3:国内医療体制・既成の再検討の実施、4:途上国からのリバース・イノベーションの活性化について解説いただきました。

「グローバルヘルスは医療の将来」ともいわれています。iGHPでは、保健医療の「システム化」と「グローバル化」に対応するため、グローバルヘルス政策に資する日本を代表するシンクタンクとして保健医療分野の世界的リーダーを目指します。



第2回グローバルヘルス政策研究センターセミナー February 21, 2017

2017年2月21日、宮田裕章 グローバルヘルス システムイノベーション研究科長による第2回セミナーを国際医療協力局との共同で開催。「ICTの変革が実現するヘルスケア新時代」と題して、データヘルス時代における患者主体の高質医療の実現に向けた昨今の動向およびAIやICTを活用した画期的な「次世代型保健医療システム」について、例を挙げて分かりやすく解説していただきました。

宮田研究科長は「ICTの変革が実現する新しいヘルスケア」の鍵となる以下の4つの要素について展開。AIと専門家のコラボレーションに始まり、「次世代のEvidence-Based Medicine」、「イノベーション・システム」、「Person-centered Open Platform for Wellbeing (PeOPLE)」、「Productivity 改革」まで幅広く解説し、ご来場された皆さんの知見を深めることができた貴重なセミナーとなりました。



The Inaugural Conference of iGHP

iGHP開設記念国際会議

"Global Health at A Crossroads : How Can Research Shape the Future Policies?"



March 2, 2017

2017年3月2日(木曜日)国立国際医療研究センター・国際医療協力局において、グローバルヘルス政策研究センター設立記念国際会議が開催されました。

これまでわが国は、長年にわたりユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)をはじめとする政策や、強靱で持続可能、かつ柔軟な医療保健システムの重要性を主導的に提唱してきました。その流れをうけて、2016年5月に日本で開催されたG7伊勢志摩サミットでも、議長国を務めたわが国では保健・医療システムの改革に注力。とりわけ、既存のグローバルヘルスの枠組みを強化し、世界的流行が懸念される感染症や人類の生命を脅かす危険な公衆衛生上の緊急事態にもより迅速、かつ的確に対応できるシステムづくりの必要性が強調されました。

このようなグローバルヘルス分野におけるたゆまざる努力と貢献の成果の一つとしてグローバルヘルス政策研究センター(iGHP)は設立されました。

iGHP開設記念会議では、世界各地より第一線で活躍するグローバルヘルスの専門家をパネリストにお迎えしました。移り行く時代とともに進化を遂げてきたグローバルヘルス政策、今日まで世界が達成してきた偉大なる業績、そして政策研究が担っている将来に向けての課題と挑戦の役割などについて、活発で建設的な議論が交わされました。

当日は、悪天候にも関わらず、会場は多くの参加者で埋め尽くされ、終始熱気に包まれました。春日 雅人国立国際医療研究センター理事長の主催者挨拶を皮切りに、塩崎 恭久厚生労働大臣(神田医政局長代読)及び横倉 義武日本医師会会長から設立への祝辞を賜りました。

続く基調講演では、タイ IHPF 代表のDr.Suwit Wibulpolprasertが「Trends of Global Health Policies and the Roles of Research」、中国 香港大学医学部長 Gabriel M. Leung教授が「A Common Secure Future from Emerging Infectious Diseases」、そして世界名門医学専門誌の一つ『The BMJ』の編集長であるDr.Kamran Abbasiより「The Value of Science and Research in Global Health Policy」という演題で、貴重な講演をしていただきました。それぞれの講演は、現代社会の抱える問題を考慮しつつ、我々が将来に向けて担っていくべき役割と義務について語られた、極めて説得力と叡智にあふれた内容でした。



会議後半は、渋谷 健司iGHP センター長から「iGHP: そのビジョンと活動」と題し、iGHPの設立背景や活動概要をはじめ、グローバルヘルス政策において主要なシンクタンクとしての役割について講演いただきました。

パネルディスカッションでは、『The BMJ』の編集長Dr.Kamran Abbasiによる司会のもと、フロアとの質疑応答による熱い討論が展開されました。会議は鎌田 光明 国際医療協力局長の挨拶で閉会。その後、iGHPのオフィスを会場にレセプションが催されました。

海外からのゲストスピーカーや参加者から多くの励ましや高い評価を頂くなど、今後のiGHPの展開を期待する声が続々と上がりました。



History

沿革



- 1974 国立病院医療センター発足。
- 1974.4 国立病院課内に国際医療協力センター準備室開設。国際医療協力センター等検討委員会設置。
- 1979 タイで発生した大規模な難民キャンプに国立病院医療センターと全国の国立病院、国立大学病院から合計470名の医療従事者を派遣。
- 1985.5 国立病院医療センターがWHO国際保健医療協力センター(コラボレーションセンター)に指定される。
- 1986.1 国際医療協力施設等検討会が「保健医療分野における国際協力の推進について」を発表。
- 1986.10 国際医療協力部 発足。
- 1992.6 国際協力研修センター完成。
- 1993.10 国立療養所中の病院と国立病院医療センターが合併し、国立国際医療センターとなる。
国際医療協力部が国際医療協力局に改名。
- 2010.4 国立国際医療センターが独立行政法人化し、独立行政法人 国立国際医療研究センター(National Center for Global Health and Medicine/NCGM)となる。
- 2015.4 国立研究開発法人 国立国際医療研究センターとなる。
- 2016.10 グローバルヘルス政策研究センター(iGHP)開設。
- 2017.3 iGHP開設記念国際会議がNCGMにて開催。

Research Projects

研究活動

グローバルヘルスシステム・イノベーション研究科

Department of Global Health Systems and Innovation

研究科長
宮田 裕章

- NCGM海外展開事業の系統的分析和科学的根拠をサポートするデータベース構築(2016年に構築したデータ基盤に基づいて、5プロジェクトを目前に展開予定)
- 上記の海外展開事業を軸に、インバウンド・アウトバウンドの各種プロジェクトの実態把握と、今後の連携強化に関する検討及び実践的研究ワークショップを開催
- 臨床診断ネットワークなどの国際展開の実装の推進(病理・放射線分野が選定され連携を推進)
- 国際診療パフォーマンス比較研究および改善のシミュレーション(日米から、今後分野と地域を拡大予定)
- システム・イノベーションモデル開発に関する研究

グローバルヘルス外交・ガバナンス研究科

Department of Global Health Affairs and Governance

研究科長
勝間 靖

- グローバルヘルスにおける日独の役割に関する比較研究 ■ SDGs達成へ向けたグローバルヘルス・シンクタンクの役割
- アジアにおけるグローバルヘルス・ガバナンス(例:ASEAN域内の医療専門職相互認証など)

グローバルヘルス指標・評価研究科

Department of Global Health Metrics and Evaluation

2017年度 新設

- NCGM海外展開事業の政策インパクト評価 ■ 感染症疫学・シミュレーション ■ 保健サービスや政策のメタ分析
- コホート研究 ■ 健康の社会的決定要因(SDH)の保健へのインパクト評価(教育や農業分野を含む)

iGHPにおける共同研究

NCGM国際医療協力局との連携プロジェクト

- 「アジアにおける看護師の相互認証」 ■ 「大規模災害発生時における迅速かつ効果的な体制構築」

NCGM外との連携プロジェクト

- 「AI等の利活用を見据えた病理組織デジタル画像(WSI)の収集基盤整備と病理支援システム開発」(日本病理学会 2017年1月採択)
- 日本の専門医制度と連携したNational Clinical Databaseと米国外科学会のNational Surgical Quality Improvement Programとの国際共同研究など

国際連携プロジェクト

- JICA技術協力プロジェクト「グローバルヘルスとユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)のためのパートナーシッププロジェクト」におけるタイ政府(国民医療保障事務局NHSO)とのビッグデータ活用のための技術協力など

Staff Members & Project Partners

メンバー・共同研究機関

Kenji Shibuya

渋谷 健司

グローバルヘルス政策研究センター センター長



▶ 専門分野

国際保健政策学、経済学、人口学、統計学、疫学。また、死亡・死因分析、疾病の負担分析、リスクファクター分析、費用効果分析、保健システムパフォーマンス分析、保健外交など。現在、Global Burden of Disease 2010 研究コメンター、GBD科学評議会、WHO保健統計専門家委員やランセット特別号の組織委員を務める。

▶ 所属

東京大学大学院医学系研究科 国際保健学専攻 国際保健政策学教室 教授
一般社団法人IGHP代表 理事

Hiroaki Miyata

宮田 裕章

グローバルヘルスシステム・イノベーション研究科 研究科長



▶ 専門分野

医療政策・管理学、疫学、社会科学方法論。また、実証的なデータに基づいた「医療の質評価」や「アウトカム分析」、「政策研究」や、医学研究における学術的質の担保、医療の質の評価法など、学術的方法論の構築・体系化。

▶ 所属

慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 教授
東京大学大学院医学系研究科 医療品質評価学講座 教授（非常勤）

Yasushi Katsuma

勝間 靖

グローバルヘルス外交・ガバナンス研究科 研究科長



▶ 専門分野

グローバルヘルス・ガバナンス、人間の安全保障、開発研究（人間開発）、国際人権論（子どもの権利）

▶ 所属

早稲田大学 大学院アジア太平洋研究科 国際関係学専攻 教授
国連開発計画（UNDP）『人間開発報告書』諮問委員、国際開発学会 副会長、
国際人権法学会 理事

共同研究機関・研究パートナー

- 国立国際医療研究センター（NCGM）国際医療協力局 ● 慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室
- 東京大学 大学院医学系研究科 医療品質評価学講座 ● National Clinical Database（NCD）
- ジュネーブ国際開発研究大学院グローバルヘルス・センター
- 日本国際交流センター（JCIE）「グローバル・ヘルスと人間の安全保障」 ● ベルリン日独センター（JDZB）

Access & Contact Information

アクセス・お問い合わせ先

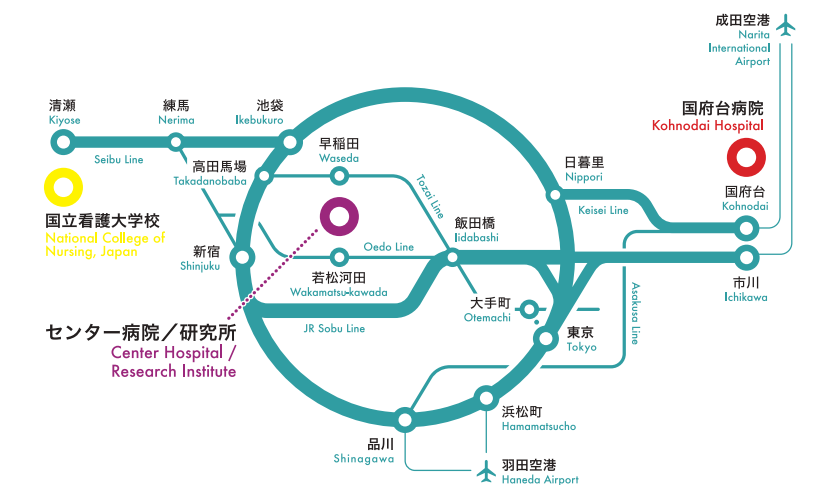


国立研究開発法人
国立国際医療研究センター
国際医療協力局

〒161-8655
東京都新宿区戸山1-21-1
TEL:03-6228-0562
FAX:03-6228-0564



Access



Contact Information

お問い合わせ
✉ ighp1@it.ncgm.go.jp
<http://www.ighp.ncgm.go.jp>